イ 太廿八〇一　可十六〇一　路廿四〇一
ロ 約十三〇廿三、十九〇廿六、廿一〇七、廿、廿四
ハ 路廿四〇十二
ニ 約十九〇四十
ホ 約十一〇四十四
ヘ 詩十六〇十　徒二〇廿五至廿一十三〇廿四、廿五
ト 可十六〇五
チ 太廿八〇九　可十六〇九　路廿四〇十六、廿一　約廿一〇四
リ 路廿四〇十六、廿一　約廿一〇四
ヌ 詩廿二〇廿二　太廿八〇十　羅八〇廿九　來二〇十一
ル 約十六〇廿八
チ 出一〇十七
ヲ 太廿八〇十　路廿四〇十
カ 可十六〇十四　路廿四〇廿
六、哥前十五〇五
ヨ 約十六〇廿二
タ 太廿八〇十八　約十七〇十八、十九　提後二〇二　來三〇一

一週れ首の日の朝いまだ昧うちわマグダラのマリア墓わ來て石の墓より取去ありしを見イ
遂わシモンペテロまたイエスの愛せし所れ弟子わ趨往て曰けるい墓より主を取し者あり我儕何處わ置し
ロ
や其處を知ず　三　ペテロと彼一人の弟子いで〻墓に往　二人ともわ趨る他の弟子ペテロより疾趨て先に墓
ハ
わ至ぬ　五　俯て屍を裹し布を置るを見たれども入ず　六　シモンペテロ彼に後て來り墓わいり裹し布を置るを
ニ
見たり　七　ろの首を裹し手巾い屍を裹し布と同に置ず離て別の處に疊て置り　八　是わ於て先に墓に來れる他
ホ
の弟子も入これを見て信せり　九　錄してイエスの死より甦るべき事あるを彼等いまだ知ざる也　十　斯て弟子
ヘ
い己の宿に歸れり　十一　マリアい墓の外に立て哭つ〻墓にむかひ俯て　十二　二人の天使を ろき衣を着イエスの屍
ト
を置たりし所の首の方に一人足の方に一人坐し居を見たり　十三　天使かれに曰けるい婦よ何ゆ哭くや彼こた
チ
へけるい我主を取し者あり何處に置しかを知ざれ也　十四　如此いひて反顧イエスの立しを見る然ども イエ
リ
スなることを知ず　十五　イエス彼に曰けるい婦よ何ゆ哭や誰を尋るかマリア園を守る人おらんと意ひ彼に曰
ヌ
けるい君よ爾もし彼を轉移し〻ならば何處に置しか我に告よ我これを取べし　十六　イエス彼にマリアよとい
ル
ふ婦かへりみて彼にラボニと曰り之を譯べ夫子おり　十七　イエス彼に曰けるい我に捫こと勿れ我いまだ我父
チ
に升ざれ也わゞ兄弟わ往ていへ我い我父すおむち爾曹が父わが神すおむち爾曹が神に升ると　十八　マグダ
ヲ
ラのマリア主を見してと〻主の如此おのれに言給へるといふ事を弟子等に往て告○　十九　此日の暮時すなむ
カ
ち一週の首の日弟子等ユダヤ人を懼る〻に因て集れる所の門を閉おきしゞイエス來て其中に立かれらに
ヨ
曰けるい爾曹安かれ　二十　如此いひし後ろの手と脅を彼等に見す弟子たち主を見て喜べり　二　イエスまた彼等
タ
に曰けるい爾曹安かれ父の我を遣し〻如く我も爾曹を遣さん　二十二　如此いひしのち氣を噓て彼等わ曰けるい

聖靈を受よ　二十三　なんぢら誰れ罪を釋ずとも其罪ゆるされ誰れ罪を定るとも其罪さだめらるべし　二十四　イエス來
レ
しとき十二の弟子の一人なるデドモと稱るトマス彼等と偕わ在ざりき　二十五　是故に他れ弟子かれに曰けるい
ソ
我儕主を見たりトマス彼等に曰けるい我もし其手わ釘の迹を見わゞ指を釘の迹わ探わゞ手を其脅に探に
ツ
非ずば信ぜじ　二十六　八日を越し後また弟子たち室の內に在けるゞトマスも彼等と偕に在り門を閉たるにイエ
ス來て其中わ立て曰けるい爾曹安かれ　二十七　遂にトマスに曰けるい爾の指を此わ伸て我手を見なんぢの手を
ツ
伸て我脅にさせ信ぜざる勿れ信ぜよ　二十八　トマス答て彼に曰けるい我主よ我神よ　二十九　イエス彼に曰けるい爾わ
ナ
れを見しに因て信ず見ずして信ずる者い福なり　三十　此書に錄さざる外なほ許多の奇跡をイエス弟子の前わ
ラ
て行り　三十一　此書を錄せるい爾曹をしてイエスの神の子キリストなる事を信ぜしめ之を信じ其名わ因て生命
ム
を得させんゞの爲なり

第二十一章

此後イエス復テベリアの湖にて弟子等に己を現せり其現せること左の如し　二　シモンペテ
ロとデドモと云るトマス及ガリラヤのカナのナタニエルとゼベダイの子等また他の二人の弟子ともわ在
イ
シモンペテロ彼等わ曰けるい我漁に往ん彼等いひけるい我儕も偕に往ん彼等いで〻舟わ登しゞ此夜い
ロ
何の所獲も無りき　四　已わ夜も明たるにイエス岸わ立り然ど弟子等ろのイエスなる事を知ず　五　イエス彼等
ハ
に曰けるい小子ども食物あるや彼等こたへけるい無　六　イエス彼等に曰けるい網を舟の右に撒べ所獲わ
ニ
らん遂わ網をうつ魚おほきに因て曳擧ること能ず　七　是に於てイエスの愛せし所の彼弟子ペテロに曰け
ホ
るい是主なりシモンペテロ主なりと聞て裸なりしゞ衣をつけ帶して湖に投入ぬ　八　他の弟子等い小舟わて
ヘ
魚の入たる網を曳て至れり蓋岸を距こと遠からず五十間許なりければ也　九　岸に着しに炭火と其上に載た

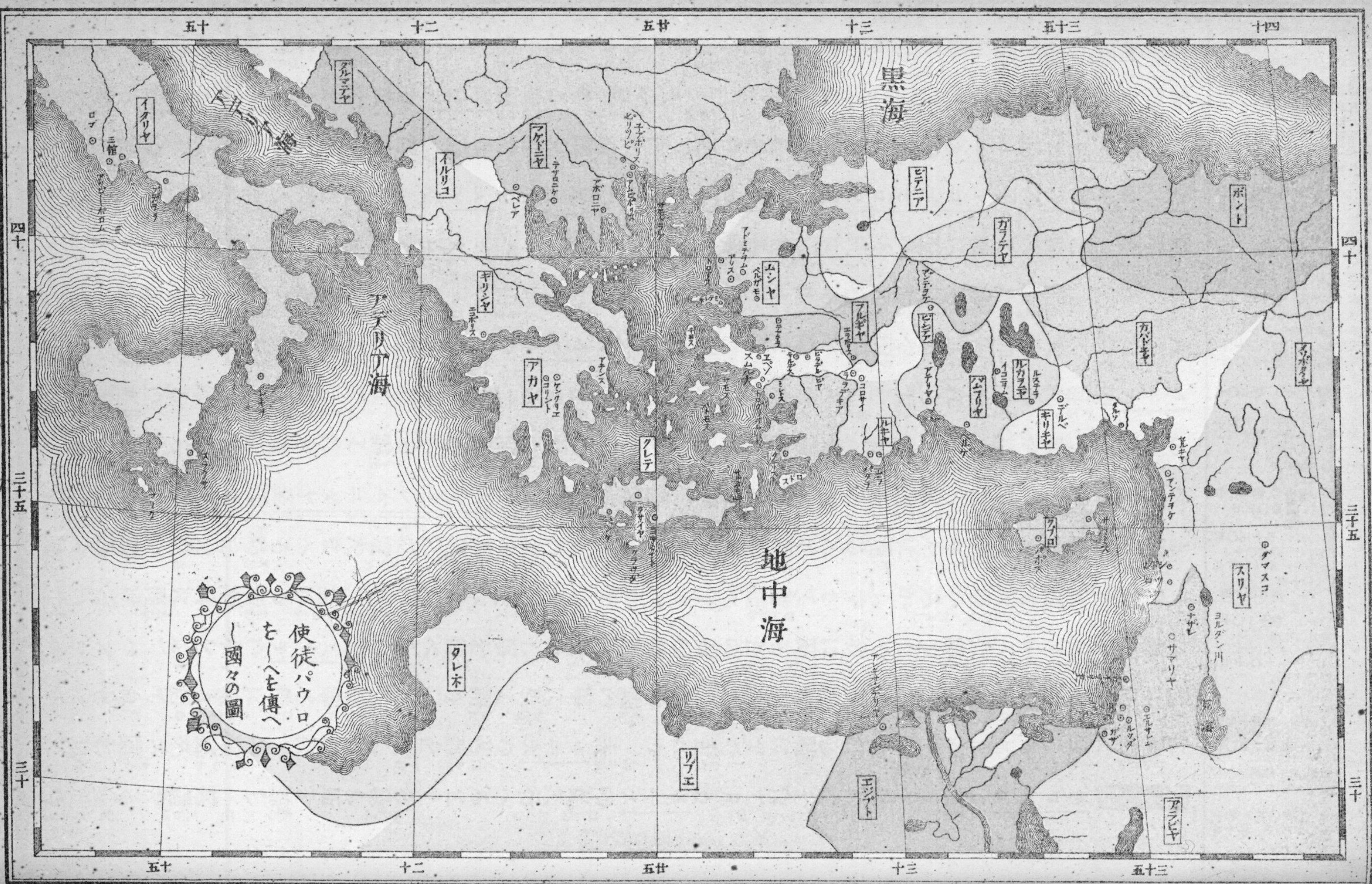
レ 太十六〇十九、十八〇十八
ソ 約十一〇十六
ツ 約廿二〇一
ナ 哥後五〇七　徒前一〇八
ラ 路一〇四
ム 約三〇十五、十六、五〇廿
四　彼前一〇八、九
イ 約一〇四十五
ロ 太四〇廿一
ハ 約廿一〇十四
ニ 路廿四〇四十一
ホ 路五〇四、六、七
ヘ 約十三〇廿三、廿〇二

る魚およびパンあるを見たり　十　イエス彼等に曰けるい今獲し所の魚を少し携來れ　十一　シモンペテロ舟にゆき網を岸に曳來しに其網の中に大なる魚百五十三尾いりたり如此おほかりけれど網い裂ざりき　十二　イエス彼等に曰けるい來て食せよ弟子たち敢て彼に爾い誰なると問ることをせず此い主なりと知たなり　十三　イエス來てパンを取かれらに予ふ魚をも亦うの如せり　十四　イエス死より甦りしのち己を弟子等に現せること是三次あり　十五　偖かれら食して後イエスシモンペテロに曰けるいヨナの子シモンよ爾これらの者に過て我を愛するや彼いひけるい主よ然わが爾を愛することい爾知りイエス彼に曰けるい我羔を牧　十六　また二次かれに曰けるいヨナの子シモンよ我を愛する乎かれ曰けるい主よ然わが爾を愛することい爾知りイエス彼に曰けるい我羊を牧　十七　三次かれわ曰けるいヨナの子シモンよ我を愛する乎ペテロ三次われを愛する乎と言れしに因て憂う斯て答けるい主ゑらざる所なし我あんぢを愛することい爾知りイエス彼に曰けるい我羊を牧　十八　誠に實に爾に告ん爾いとけおき時みづから帶し意に任せて遊行ぬ老ていい手を伸て人爾を束り意に欲ざる所に曳至らん　十九　如此いへるい其如何ある死にて神を榮んといふ事を示したるおり此を言て後また彼に曰けるい我に從へ　二十　ペテロ反顧イエスの愛せし弟子の從へるを見この弟子い食する時イエスの懷に倚て主を賣す者い誰ぞやと問し弟子なり　二十一　ペテロ之を見てイエスに曰けるい主よ斯人いかに　二十二　イエス彼に曰けるい我もし彼が存て我來るを待を欲ば爾に何の與あらんや爾い我に從へ　是に於て此言兄弟の中に傳りて此弟子死ずと言り然ども　二十三　イエスペテロに彼い死ずと言しに非ず我もし彼が存へて我來るを待を欲ば爾に何の與あらん乎と言しなり　二十四　此等の事について證をなし且これを書しる者い其弟子なり我儕うの證の眞なる事を知り　二十五　イエスの爲し事い此等の外おなほ許多あり若これを一々ゑるしおば其書この

ト 徒十〇四十一
チ 約廿〇十九、廿六
リ 徒廿〇廿八　來十三〇廿　啓前二〇廿五、五〇二四
ヌ 約二〇廿四、廿五、十六〇廿
ル 約十三〇廿六　徒十二〇三、四
ヲ 彼後一〇十四
ワ 約十三〇廿三、廿五、廿〇二
カ 太十六〇廿七、廿八、廿五〇廿一　哥前四〇五、十一〇廿六　默二〇廿五、三〇十一、廿二〇七、廿
ヨ 約十九〇廿五　約參十二
タ 約廿〇廿
レ 歷七〇十

世に載盡すこと能ざと意ふ也アーメン

新約全書約翰傳福音書　終


使徒パウロをしへを傳へし國々の圖
黒海
地中海
アデリア海
イタリヤ
イルリコ
マケドニヤ
キリシヤ
アカヤ
クレテ
ムシヤ
ルキヤ
ビテニア
ガラテヤ
ポント
カパドキヤ
キリキヤ
クプロ
スリヤ
ダマスコ
エジプト
リブエ
アラビヤ
ヨルダン川
ピシデア
ルカオニヤ
パンフリヤ
メソポタミヤ

新約全書使徒行傳

第一章

一　テヨピロよ我すでに前書を作て凡りイエスの始て行へるところ教し所を錄し　二　其選たる使徒等に聖靈に託て命ぜしのち擧られし時にまで至れり　三　夫イエスの苦難を受し後おほくの確據ある證を以て己の活たる事を現し四十日の間かれらに見え神の國の事に就て語り　四　また彼等と偕に集り居て命じけるの爾曹エルサレムを離ずして我に聞る所の父の約束し給ひし事を待べし　五　蓋ヨハネの水を以てバプテスマを施たれども爾曹の久からずして聖靈によりバプテスマを受べければ也　六　集れる者かれに問けるの主よ爾いま國をイスラエルに還さんと爲か　七　彼等に曰けるの父の其權にて定たまへる時また期の爾等ぞ知べき所に非ず　八　然ども聖靈なんぢらに臨に因て後爾曹能力を受エルサレムユダヤ全國サマリヤおよび地の極にまで我が證人と爲べし　九　此事を言畢しのち彼等の見ぞの間に擧らる雲これを接て見ざらしめたりイエスの昇れる時かれら天を仰ぎ視たりしに白衣を着たる二人の人ありて旁わ立　十　曰けるのガリラヤ人よ何故に天を仰て立るや爾曹を離て天に擧られし此イエスの爾曹ぞの彼の天に昇るを見たる其如く亦きたらん○　十一　其時かれら橄欖と名る山よりエルサレムに歸る此山のエルサレムに近く約ろ安息日に行うる程なり　十二　已に入て樓に登れり此に留をる者のペテロヤコブヨハネアンデレピリポトマスバルトロマイマタイアルパイの子ヤコブゼロテと云るシモンヤコブの兄弟なるユダなり　十四　凡この人々の婦等およびイエスの母マリア並イエスの兄弟と偕に心を合せて恒に祈禱を務たり○　十五　當時ペテロ弟子等（うの集をる者　井　十六　人々兄弟よ聖靈ダビデの口によりてイエスを捕る者を導　十七　けるユダに就て預じめ語たる此聖書の必ず應ずべかりし也　蓋かれも我儕と共に列りて此職を任たれば

イ　路一〇一至四
ロ　約廿〇廿二、廿三
ハ　太廿八〇十九、廿一可十六〇十五、廿一徒十〇四十二
ニ　可十六〇十九、路廿四〇十一徒一〇九、提前三〇十六
ホ　可十六〇十四、路廿四〇廿一〇、約廿〇十九、廿六、廿一〇十四、羅前十五〇五
ヘ　路廿四〇四十九
ト　約十四〇十六、十七、廿六、廿七、十五〇廿六、十六〇七、使二〇廿三
チ　太三〇十一、徒十一〇十六、十九〇八
リ　耳三〇十八、徒二〇一至四、十一〇十五
ヌ　但七〇十七、襲一〇廿六、四十九〇十一、歴九〇十一
ル　太廿四〇廿六、可十三〇廿、二撒前五〇一
チ　徒二〇一、四、四〇廿三、廿四〇四十九、徒三〇廿六
ワ　路廿四〇五十一、約六〇六
カ　徒八〇五至廿五
ヨ　徒十三〇四十七
タ　路廿四〇四十八、約十五〇、廿七、徒一〇廿二、二〇廿
レ　路廿四〇五十一、約六〇六
ソ　太廿八〇三、可十六〇五、路廿四〇四、約廿〇十二
ツ　徒二〇七、十三〇廿一
ナ　但七〇十三、太廿四〇廿、可十三〇廿六、路廿一〇廿七、約十四〇三、撒前一〇十、四〇十六、撒後一〇十
ウ　太十〇二、四
ヰ　徒二〇一、四十六
ノ　路廿三〇四十九、五十五、廿四〇十
オ　太十三〇五十五、路廿二〇四十七、約十八〇三
ク　太十〇四、路六〇十六
ヤ　路四十一〇九、約十三〇十
マ　太十〇四、路六〇十六
ケ　可十四〇十五、路廿二〇十二、使九〇廿七、廿九、廿〇
ム　路廿四〇五十二
ヲ　路十一〇七

ケ 太廿六〇十五 幣後二〇十五
フ 太廿七〇三至十
コ 詩六十九〇廿五
エ 詩百九〇八
テ 勢十五〇廿七 徒一〇八、四〇廿三 勢壹一〇一至三
ア 徒十五〇廿二
サ 母上十六〇七 代上廿八〇九、廿九〇十七 耶十一〇廿、十七〇十 徒十五〇八 默三〇廿三
キ 太廿六〇廿四 勢十七〇十二
ユ 箴十六〇廿三
イ 利廿三〇十五廿一 申十六〇八 徒廿〇十六
ロ 徒一〇十四
ハ 王上十九〇十一、十二
ニ 太三〇十一
ホ 徒一〇五、四〇廿一
ヘ 可十六〇十七 徒十六、十九〇六 哥前十二〇十、廿八、廿十三〇一、十四〇
ト 徒一〇十一
チ 王下十七〇六 默十一〇十一
リ 徒前一〇一
ヌ 徒前一〇一
ル 徒六〇九
チ 雖一〇七

也 十八 斯人い不義の價をもて地所を買また倒に墮て眞中より裂れ其腸ことゞく流出たり 十九 此事エルサレムに住る凡の人に知しかゞ其地所を方言にてアケルダマと呼これを譯ゞ血の地所なり 二十 詩の篇に錄して彼の家い墟くなれ其中ゐ人を住居する勿れ彼の職い他人に得させよと云り 二一 是故に主イエスの我儕が中に往來し給たる間 即ちヨハネのバプテスマより始われらを離て擧られし日ゐ至るまで常に我儕と偕ゐ在し者の中一人われらと共に其甦りし事の證人と爲べき也 二三 是ゐ於てバルサバと稱るヨセフ又の名いユストと云る者とマッテアとの二人を擧て 二四 祈いひけるい衆人の心を識たまふ主よ願くい奉事てとゝ使徒の職を得させんが爲に此二人のうち孰を選たまひしか示し給へ 二五 既にユダい此職を離て其往べき所に往たり 二六 斯て鬮を取しにマッテアに當ければ彼十一人の使徒等と共に列れり

第二章

ペンテコステの日に至て弟子等みな心を合せて一處に在しに 二 俄に天より迅風の如き響ありて彼等ゞ坐する所の室に充り 三 焰の如もの現れ歧て彼等各人の上に止る 四 是に於て彼等いみな聖靈に滿され其聖靈の言しむるに隨ひて異なる諸國の方言を言ひはじめたり 五 時に敬虔ゐるユダヤ人天下の諸國より來てエルサレムに留れる者ありき 六 此音おこりしゐ因おほくの人々集りけるゞ各人おのが方言を彼等の語れるを聞て躁ゐへり 七 みな駭き異みつゝ互ゐ曰けるい視よ此語る者い凡てガリラヤ人ならず乎 八 如何して我儕おの〳〵生れし所の方言を彼等より聞か 九 我儕いパルテア人メデア人エラム人およびメソポタミアユダヤカパドキアポントアシア 十 フルギアパムフリアエジプト又クレテ子ゐ近きリブエの地などゐ住る者またロマより來て居もの或いユダヤ人および其教ゐ入し人 十一 又クレテ人アラビヤ人なるに彼等ゞ我儕の方言をもて神の大なる用を語るを聞かと 十二 皆おどろき訝て互ゐ曰けるい此い何なる故ゾや 或い嘲

ワ 撒前五〇七
カ 耳二〇廿八至廿二 撒二〇
ヨ 撒四十四〇三 結廿六〇廿七 亞二〇
タ 徒廿一〇八、九
レ 徒廿一〇四、九、十 哥前十二〇十、廿八、十四〇一
ソ 耳二〇廿、廿一 太廿四〇廿九 可十三〇廿四 路廿一〇廿五
子 羅十〇十三
ナ 太十一〇二至六 約三〇二、六〇十四、十八 一徒十〇廿八 來二〇四
ラ 伯九〇廿四至廿七 太廿六〇廿四 路廿二〇十二、廿四〇十四、十八、五〇廿 徒二〇廿二、三〇十五、四〇十、十四、十三〇廿、廿四、十七〇廿一 羅四〇廿四、八〇十一 哥前六〇十四、八、十五〇十五 耳後四〇十四 加一〇一 弗一〇廿 西二〇十二 撒前一〇廿 羅三〇廿 提後二〇八
ク 詩十六〇十 徒十三〇廿五
ヤ 徒一〇八 哥前十五〇三至六
マ 徒五〇廿一 賽二〇九 來十〇十二
ケ 路廿四〇十九 約十四〇廿七、十三 徒一〇四
ウ 約五〇廿六、十〇十八
弁 詩十六〇八至十一
ノ 王上二〇十 徒十三〇廿六
オ 母下七〇十二、十三 詩百廿二〇十一 路一〇廿至廿三、六十九 羅一〇三 提後二〇八
ク 詩十六〇十 徒十三〇廿五
ヤ 徒一〇八 哥前十五〇三至十 撒前一〇一
マ 徒五〇廿一 賽二〇九 來十〇十二
ケ 路廿四〇十九 約十四〇七、十三 徒一〇四
ウ 約五〇廿六、十〇十八
弁 詩十六〇八至十一
オ 母下七〇十二、十三 詩百廿二〇十一 路一〇廿至廿三、六十九 羅一〇三 提後二〇八
ク 詩十六〇十 徒十三〇廿五
ヤ 徒一〇八 哥前十五〇三至十 撒前一〇一
マ 徒五〇廿一 賽二〇九 來十〇十二
ケ 路廿四〇十九 約十四〇七、十三 徒一〇四

りて此人々い甘き葡萄酒ゐ滿されたる者なりといふ人あり 十四 是に於てペテロ十一人と偕にたち聲を揚て彼等に對いひけるいユダヤ人および凡てエルサレムに住る者よ爾曹よく我言を聞て之を知 十五 今い晝の九時なれゞ爾曹の逆料ごとく此人々い醉る者に非ず 十六 こゝ即ち預言者ヨエルに因て語れる所なり 十七 神いひ給く末の世に至て我わゞ靈をもて凡の人に注ん爾曹の子女も預言すべし又なんぢらの幼者い異象をみ老者い夢を見べし 十八 其とき我わゞ靈を我僕なる男女に注ん彼等も亦預言すべし 十九 われ上なる天に奇跡を現し下なる地に休徵を示さん即ち血あり火あり煙ゐるべし 二十 主の大なる顯赫日の來ん前に日い晦く月い血に變ん 二一 凡て主の名を呼賴む者い救るべし 二二 イスラエルの人々よ此等の言を聽られナザレのイエスい爾曹の知ごとく神かれに託て爾曹の中に行し妙なる能力と奇跡と休徵とを以て爾曹に證し給る所の人なり 二三 此人い即ち神の定し旨と預め知たまふ所に應て解さる爾曹い無法の手をもて之を捕へ十字架に釘て殺せり 二四 神い其死の苦を釋て之を甦らせ給へり彼い死に繫れ在べき者ならざれゞ也 二五 蓋ダビデ彼に就て曰けるい我わゞ前に主の常に在を見るゝの我右に在い我動されざる爲なり 二六 是故に我心い樂み我舌い喜べり且わゞ肉體い望に居ん 二七 こゝ爾い我魂を陰府に遺おかず又なんぢの聖者を朽果しめざるゞ故なり 二八 爾すでに我に生命の路を示す我を爾の前に置て喜に盈しめんと 二九 人々兄弟よ我始祖ダビデに就て憚る所なく爾曹に語る是當然ことなり彼い既に死て葬られ其墓い今日に至るまで我儕の中にあり 三十 彼い預言者にして神これゐ誓を立て其血統の中より一人を擧て位に即しめんと矢たまへるを知 三一 預め此事を曉るゞ故にキリストの甦る事につき語て彼い陰府に遺おかれず亦ゝの肉體も朽果ずと曰るなり 三二 既に神いイエスを甦らせ給へり我儕い皆ゝの證人なり 三三 是故に彼い既に神の右に擧られ約束の聖靈を父より受て今なん

フ 徒十〇四十五　帯四〇八
コ 〃百十〇一　太廿二〇四十四　哥前十五〇廿五　帯一〇廿　來一〇十三
エ 亞十二〇十　路三〇十　約十六〇八十九　徒九〇六
テ 徒九〇五十六　路三〇十
ア 路廿四〇四十七　徒三〇十
サ 太廿八〇十九　徒廿二〇十
キ 徒八〇十五至十七
ユ 耳二〇廿八　徒三〇廿五
メ 賽四十四〇三　徒十〇四十五十一〇十五十八十四
ミ 帯廿二〇五
シ 徒五〇十四
ア 徒一〇十四　二〇四十六　羅十二〇十二　帯六〇十八　西四〇二　來十〇廿五
ヒ 可十六〇十七　徒四〇廿三五〇十五
モ 徒四〇廿二至廿七
セ 賽五十八〇七
ス 路廿四〇五十三　徒五〇四十二
イ 徒廿〇七
ロ 路二〇五十二　徒四〇廿三
ハ 羅十四〇十八　徒五〇十四　十一〇廿四
イ 路廿二〇八　約廿〇三　徒八〇十四
ロ 約九〇八
ハ 徒四〇七十　可十六〇十七
ニ 賽廿五〇六

ならが見ところ聞ところの者を注り三四夫ダビデい天に昇しことなし然るに彼みづから言主わが主に曰けるい我なんぢの敵を爾の足凳と爲まで我右に坐すべしと三六然ば凡てイスラエルの全家よ爾曹ぞ十字架に釘し此イエスを立て神これを主となしキリストとなし給しことを確に知彼等これを聞て其心刺るゝが如し是に於てペテロと他の使徒等に問けるい人々兄弟よ我儕い何を爲べき乎ペテロ彼等に曰けるい爾曹おの〳〵悔改めて罪の赦を得んが爲にイエスキリストの名に託てバプテスマを受よ然ば爾曹も聖靈の賜を受べし三九この約束い爾曹および爾曹の子孫また凡の遠人すなわち主たる我儕の神に召るゝ人々に屬なり四十また多言をもて證して勸けるい爾曹この邪なる世より救出されよ四一其時この言を聞納し者いバプテスマを受たり是日弟子に加れる者おほよそ三千人四二彼等い常に使徒等の教訓をうけ交接をなしパンを擘ことゝ祈禱とを務む四三是に於て敬畏人々の心に生ず又使徒等に託て許多の奇跡と休徵おこなはれたり四四信者いみな一處に會て諸物を共わし四五產業と其所有を鬻て各人の用に從ひ之を分與へぬ四六日々心を合せて殿に在また家に於てパンをさき歡喜と誠心をもて食を同わし四七神を讃美すべての民に悅ゝる主すくはるゝ者を日々教會に加たまへり

第四章

第三時祈禱の時に當てペテロとヨハネ共に殿に上し日二一人の生來なる跛わり殿にいる人に施濟を求ん爲に日ごと負れて殿の美と名る門に置る三彼ペテロとヨハネの殿に入んとするを見て施濟を求り四ペテロヨハネと共に熟々之を視て曰けるい我儕を觀よ五かれ得ること有んと意ひて彼等を見つめたり六ペテロ曰けるい金銀い我になし惟われに有ものを爾わ予ふナザレのイエスキリストの名により起て行七遂に其右の手を執これを起ければ其足と踝たゞちに健勁なりて八躍立かつ行めり踊あゆみ神を讃美

ホ 徒四〇十六、廿二
ヘ 約十〇廿三　徒四〇十二
ト 徒五〇廿
チ 太廿七〇二至廿五
リ 太廿七〇廿　可十五〇十一　路廿三〇十八、廿一　約十八〇廿、廿一　十九〇十五
ヌ 約七〇廿九、十二〇十六、十七〇一
ル 詩十六〇十　可一〇廿四　路一〇廿五　徒二〇廿七、四〇廿七
チ 徒七〇五十二、廿二〇十四
リ 來二〇十五〇二　約壹五〇十一
ヨ 徒二〇廿四
カ 徒二〇廿四
タ 太九〇廿二　徒十四〇九、十
レ 路廿三〇廿四　約十六〇十三　徒十三〇廿七　哥前二〇八　提前一〇十三
ソ 詩十二〇　賽五十〇六、五十三〇十二　但九〇廿六　使前一〇十、十一
ツ 撒四十三〇廿五　撒後一〇七、十
子 太十七〇十一
ナ 太十七〇十一、十八〇十九
ラ 徒七〇廿七
ム 徒二〇廿九　羅九〇四、八、十五〇八　加三〇廿六
ウ 創十二〇三十八〇十八、廿二〇十八　廿六〇四、廿
井 賽五九〇廿　太一〇廿一　多二〇十一　亞十四
ノ 徒十三〇四十六

つゝ彼等と偕に殿に入ぬ九衆民かれの行み神を讃るを見て十素うの殿の美門に坐し施濟を求たりし者なるを識この人に所遇ことを大に駭き奇めり十一ろの跛者ペテロとヨハネにすがり居し間に民みな駭こと甚しくソロモンの廊と名る所に趨集れり十二ペテロ之を見て民に答けるいイスラエルの人々よ何故に此事を奇とするや我儕が自己の能と德をもて此人を行しふが如く何ぞ我儕に目を注るや十三夫アブラハムイサクヤコブの神わが先祖たちの神い其僕イエス即ち爾曹が解しゝ者ピラトが釋すことを擬たる時ろの前に爾曹が拒し所の者を榮たまへり十四爾曹い聖者義者を拒み人を殺しゝ者を己に予られん事を求十五かつ生命の主を殺せり神い之を死より甦らせ我儕い其證人なる也十六イエスの名い其名を信ずるに由て爾曹が見ところ識ところの此人を健勁せり如此イエスに由る信仰い爾曹すべての人の前に於て此人を全く愈たり十七兄弟よ我い知なんぢらが行し事い知ざるに由てなり爾曹の有司等も亦然り十八然ども神い凡の預言者の口に託てキリストの苦を受ることを預め示し其言を如此かなはせ給へり十九是故に爾曹罪をくい心を改て其罪を抹るゝことを爲よ蓋主の前より安舒日の來り二十且あらかじめ擬たまひしイエスキリストを遣れんが爲なり二一神の古より聖預言者の口に託て言たまひし萬物の復興ん時まで天い必ず彼を受おくべし二二モーセ我儕の先祖たちに告て曰けるい主なる爾曹の神い爾曹の兄弟の中より我に似たる一人の預言者を起さん其爾曹に告る凡の言を聽べし二三凡て此預言者に聽從ざる者い民の中より取滅さる二四又サムエルより以來かたりし所の預言者も皆あらかじめ此日を指て言り二五夫なんぢらい預言者の子孫なり且神の我儕が先祖たちわ立たまひし契約を承繼ものなり即ちアブラハムわ告て地の諸族い爾の裔わ由て福を獲んと曰たまへり二六神すでわ其僕イエスを立なんぢら各人を其惡より引反し福を獲させんが爲わ先なんぢらわ